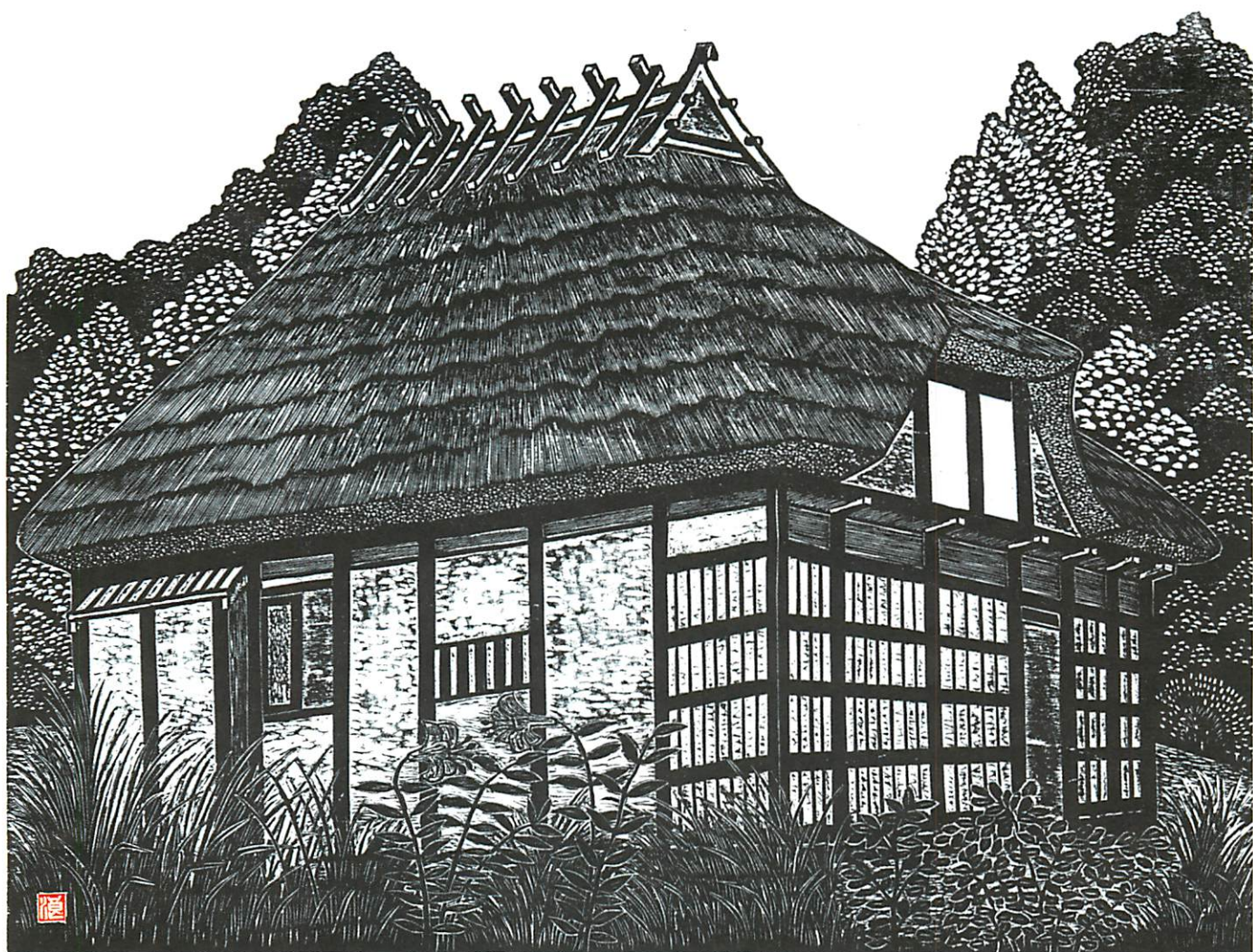


Stage Up

2003年

12月号

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 126



「日本民家園」 版画：浪江年博

- もくじ**
- 2 特集 かわさき市民アカデミー設立10周年記念座談会
 - 6 生涯学習ア・ラ・カルト
 - 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団

〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085

TEL 044 (733) 5811 (ステージ・アップ直通) E-メール: stage-up@kpal.or.jp

特集

かわさき市民アカデミー設立10周年記念座談会

「かわさき市民アカデミー」は市民の高い学習意欲に応じて、専門的で継続的な学習を行う新しい生涯学習機関として平成5年10月に設立され、本年が設立10周年となります。この間、アカデミーでは多くの市民に学習の機会を提供してきました。受講者は着実に増え続け、10年間の総延数が37,000人となっています。アカデミーは、多様化高度化している市民の学習活動に的確に対応していくことが求められています。そこで設立10周年を契機として、設立準備や運営に携わってきた方、現受講生にお集まりいただき、過去に学び未来を切り拓くためこのほど座談会を開催し「これからのアカデミーを展望する」をテーマに語っていただきました。

出席者 伊与田敦夫さん（かわさき市民アカデミー運営協議会市民委員）
 福富 伸康さん（かわさき市民アカデミー生涯会員）
 宮蔭 秀子さん（かわさき市民フロンティア会員）
 和田あき子さん（講師・かわさき市民アカデミー運営委員）
 森山 定雄さん（初代学習事業室長・川崎学研究委員会座長）
 寺内 藤雄さん（川崎市教育委員会生涯学習推進課長）
司会 関 智義（川崎市生涯学習振興事業団アカデミー室長）



出会い、学び、世界が広がる

司会 伊与田さんはアカデミー運営協議会の市民委員ですが、市民委員に公募した動機をお聞かせください。



伊与田敦夫さん

伊与田 全くの会社人間だったものですから、いざリタイアして突然時間ができると、何か生活の拠り所とか一定のカリキュラムを持たないとどうにもならない。また一方では、市民として何らかの地域貢献ができれば、と考えていました。そんな折、「市政だより」でアカデミーと市民委員の公募を知り応募しました。昨年の4月から市民委員を受けていますが、お役に立つには受講していないと話にならないと思ひまして、昨秋から週2回受講しています。

司会 福富さんは開校時より受講されております。またアカデミー双書「樺太からクアラルンプールまで」の著者でもあります。今までに印象に残っていることなどお話しください。

福富 会社人間で40数年仕事をし、93年の暮れにリタイアしました。市政だよりでアカデミーのカリキュラムを知りました。戦後大学生活をあわてふためいて終えたものですから、勉強し足りないという思いが強くあって、アカデミーで勉強しようと94年秋に入会しました。いままで「政治」「歴史」の講座と演習、時々「美術」と「文学」の講座を受講し、週2・3回アカデミーに通っています。講師の先生より、私が戦時下で体験した樺太からクアラルンプールの捕虜生活を「本にしてみませんか」というお話がありました。15年前に入院した時、少し樺太のことを書き出していましたので、それをベースにまとめてみました。出版後、文学OB会の座談会で声がかかり、これが縁で今まで言葉を交わすことになった女性たちと知り合えました。それから、私と同世代で戦後樺太から引き揚げてきた方々から問い合わせがあった

り、自らの体験をまとめた手記をいただいたりしました。本にしたことで、いろんな方々との交流が始まりました。

司会 宮蔭さんは第1回生で継続受講されており、修了者の組織「フロンティア」の活動に参加しています。

宮蔭 子育てが一段落し、これから何をしようかと思っていた時にアカデミーのチラシが目に入りました。カルチャーセンターとは違う科目があり、「これだ!」と思って入りました。

アカデミーで一番印象に残っていることは、文学の仲間たちとの出会いです。「93文学OB会」を続けて10年になります。「アカデミーは『めだかの学校』、みんな生徒で先生です」と和田あき子先生がおっしゃったのですが、その通りだと思います。すばらしい先生方に会えたことが大きな魅力です。

「フロンティア」は、アカデミーで学んだことを何か社会還元できないだろうかという発想から設立されたものです。私は文学を専攻してきましたので、何を社会に還元したらよいかわからなかったんですが、初めに不登校児の親を支援する講座を仲間と一緒に企画しました。ゲストには、不登校を克服した方をお招きしてお話を伺いました。少しでも不登校児のお母さんの助けになればと思い企画したのですが、こちらがたくさん学ばせていただいたような気がします。フロンティアは、環境保全、国際協力、信州の高森町との交流などもしていますので、それぞれの活動に対して私ができることを少しずつお手伝いしています。

司会 和田さんは、設立当初より講師としていろいろな講座を担当しています。また、企画委員、運営委員として多くの講座をコーディネートし、運営にも深く関わっていただいています。企画委員・運営委員としてご苦労なされたこと、講師側からみた受講生についてお聞かせください。

和田 世田谷市民大学で運営委員をしていた縁で「かわさき市民アカデミー」の設立についてのお話があったので引き受けました。アカデミーでは、大学で行っているような講義をしていくことを目安としています。「今それぞれの分野で一

福富 伸康さん



番問題になっていることは何か」ということを頭におきながら、運営委員の先生方の人的ネットワークを生かして、「コンパクトで、程度は非常に高い」カリキュラムづくりを考えてきました。「この人に講師をお願いしよう」と依頼しても、時間の調整がうまくいかず、一度で話が決まるということはないのです。大体2・

3人に依頼して、落ち着いてくるという感じです。魅力的なカリキュラムを作ることが勝負だと思っていますが、そう簡単ではありません。でも、この10年間はそれなりに魅力的なものが組めたと思っています。行政の事業としては、かなりレベルが高いと思います。

受講生はとても熱心に学んでいます。講師に頼んだ先生から「受講生が熱心に聞いてくれるからかわさき市民アカデミーならまた行ってもいいよ」とよく言われます。ゼミでは、みんなと一緒に勉強しているうちに視野が広がりますし、本の読み方ひとつにしても、どういう視点で本を読むかがわかってきます。2年間のあいだに確実に実力がついてきていますね。10年間ゼミを担当して感じるのは、初めのころに比べ、アカデミーのレベルが上がっているということです。

司会 森山さんは、設立準備段階から関わり初代学習事業室長としてもアカデミーの事業に専念されました。今も川崎学研究委員会座長として関わっていただいています。創設期の様子や今日のアカデミーについての感想をお話してください。

森山 92年に事業団に入り、アカデミーの立ち上げに関わってきました。創設期は、会場確保と受講生獲得に苦労しました。受講者の総延数が37,000人ということは、当時から考えると全く夢のような話です。

アカデミーを立ち上げるにあたって、川崎市内の社会教育施設が行っている事業の調査をしました。そこの協同関係の可能性はあるのかなのか。同時に、市民館や他の公的な施設が行っている学習が、今どんな状況にあるのかについての調査もしました。現状を踏まえて、現実の中からひとつの形を作り出したわけです。内容については、今の受講生が学習されているように、コースの学習だけでなく、川崎を考える機会としての「川崎学」、地域社会に目を向けるための「社会活動」への参加、学習の積み上げとしての「単位制」、自治的な活動を重視するということになりました。

司会 寺内さんは、長く社会教育に携わってきていますが、アカデミーは市民自治の力量形成の場になっているのか、自治体が市民の大学を運営する意味についてお聞かせください。

寺内 これまでの川崎の社会教育・生涯学習の中では、アカデミーのように新しく規模の大きい事業はなかったと思います。市民自治の力量形成の場になっているのかということですが、ある先生は「学習するときはそうでもないが、2年間の修了に近づくと、『社会派』と『自分派(個人派)』に分かれているところに問題がある。『自分派』は学歴もレベルも高いので、学習レベルを高くしないと、満足していた

けない。そこは、与えられたことだけをする大学の若い学生と違って、非常に難しい」と語っておられました。社会教育に携わってきた者からしますと、そのあたりが非常に気になる場所です。簡単に二つに分けることは難しいと思いますが、あえて事業として考えたときに、この二つの視点は大事などころではないかと思っています。

社会派的なものがなければ、市民自治に関わる事業としては非常に心もとない。自治体が市民の大学を必要とするかということにつながってくる。他の自治体が、学校としての大学の維持・運営に苦勞していることを考えても、受講生個人のことだけで終始するとなれば、貴重な公金を投入していく市民大学としてはどうなのか、と思わざるを得ません。

アカデミーに入って「川崎市民」になった

司会 先ほどの寺内さんのお話では、公金を使って運営する市民大学なので、学習したことを社会に還元してほしいということ。一方では「若いときに勉強する機会がなかった。やっとリタイアして時間ができたので勉強させてもらいたい。あまり社会還元ということにこだわらなくてもいいのでは…」という方も多いようです。その点で、行政が期待するものと市民の意識が少し違うように思いますが…。

福富 行政の悩みはよくわかりますが、それだったら、何故市民にもっと強くアピールしないのでしょうか。それが一つ問題だと思います。私もフロンティアが企画した長野県の援農にボランティア参加しました。ボランティアも企画があって、呼びかけがあるから参加できます。やる気があっても、企画がなく白紙では「社会に還元してほしい」と言われても何をやっていいかわからないのです。行政はお金を生かすために、人材をどうやって引き出すかを考えるのが役目だと思います。

森山 アカデミーは、「学習成果の地域還元」をねらっているわけで、それが「川崎学」であり「社会活動」であります。そのところが10年を経過しても、事務局としては未だに

宮蔭 秀子さん



悩んでいるところなのでしょう。動き出した時から理念としては評価されても、現実をどう組み立てていくかが課題でした。行政もこの点を考えていただきたいし、事務局も今後の展開の中で、深く研究していく必要があると思います。

「川崎学」を作ったのは、まず川崎とは何なのかを知ってもらい、あわせて川崎市が自治体と

してどういう課題を抱えているのかを把握してもらおう。学習を通して、その解決のためには何が必要なのかを考えていただきたいというねらいがありました。地域学としての「川崎学」を私たちは漠然と構想してきたのですが、学問的な裏づけがあるわけではないのです。そのために「川崎学研究委員会」を作って、ひとつの地域を総合的にいろんな目でとらえていく、地域学としての「川崎学」が構成されてくればという思いで、今でも細々と研究を続けている状況です。

自主的な活動や社会的な活動を大事にしたいということですが、事務局で必ずしもそれが全部見えていたわけではあり

和田あき子さん



ません。フロンティアの活動、友の会の活動、OBとしての自主的な活動がいろんな場面で展開している。その点では、当時事務局として考えていた以上に、人と人のおもしろいつながり、学習の発展や広がりがあるなと感じています。

宮蔭 確かに、フロンティアは「社会還元を目的としたアカデミーOBの会」ということで出発しましたが、アカデミーには、他にもOBの会がたくさんあります。何年前かに、

フロンティアでOBたちがどんな活動をしているか調べました。川崎学を学んだ人達は「旬の会」「道草の会」など、年度ごとにグループを作っています。文学を学んだ受講生は文学のOB会を、ことばと映像コースで朗読をした人たちも同じ時期に学んだ人達でグループを作っているようです。

社会還元をしているOBの全部を把握したわけではありませんが、見えないところでもたくさん活動していて地域に浸透しています。心強い結果でした。

和田 アカデミーがなければ、川崎市民にならなかった人はたくさんいると思います。川崎学をアカデミーの会員の必修科目として位置付けたことで、どのコースを選択しても、川崎について学ぶというのは非常にいいアイデアだと思います。地域にも趣味の会はたくさんあると思いますが、アカデミーで知的なことに関心を持っている人が地域の人とつながって「知縁・地縁」で集まり、活動しているという例もあります。

宮蔭 アカデミーに入った時は、川崎に住んで10年以上上っていたのですが、和田先生がおっしゃるように、アカデミーに入って「川崎市民」になった気がします。アカデミーで川崎学を受講したことで、自分の住んでいる区以外のことも知ることができ、より関心が高まりました。

伊与田 私も川崎市に住んで20年ですが、アカデミーに入って初めて市民を実感しました。行政が市民のために運営するというところに大きな意味がある。市民が単なる個人として受講するのではなく、互いに市民という共通意識を持って受講していると思います。受講の成果が友の会やフロンティア活動などの実践活動に結実している点が素晴らしい。また、アカデミーは自治体の行政と市民を結ぶ学習活動ともいえます。私は昨年、川崎学と高齢者福祉を受講しましたが、まだ遠いと思っていた高齢問題や市政がぐっと身近になりました。市民がより前向きに、建設的に生活していこうとする時に、アカデミーでの学習は大きな力になります。市民の生涯学習を支援するモデル事業として誇るべきものだと思います。

和田 「アカデミーには社会派と自分派がいる」という話に関連してですが、「自分派」は専門のより高度な勉強を志向している人だと思います。「社会派」といっても「政治派」ではないですね。私は社会活動を広く捉えたいと思っています。人がつながって場を作っていくところからが社会活動で、そこから始めていけばいいと考えています。

社会自体が高度化して、どんどん変化をしていく。そうい

う中で、年齢を重ねて高齢になっても、生きた知識を身につけるということがひとつの市民活動というか、それ自体が社会活動だ、という気がします。市の財政が大変になってきているようですが、生活者にとっては生き甲斐をどこで見つけるかということも大事だと思います。アカデミーがあって、そこで生き甲斐を見つけて、新しい社会に少しでも対応して生きていく。そのことで生活の中にハリとか充実感を得ることが、今の社会では大切になってきていると思います。

私はゼミを担当していて「正しい意見というものがあると思わないで、自分はこう考えるということを行うことが第一です」と話しています。自分の考えを少しずつでも語っていく中で、なんとなくわかってくるのです。私は、そういう活動自体に意味があると思います。家庭の中で、地域の中で、多様な意見をだす、そのような姿勢で生きるということをアカデミーで学んでいくということが、私は一つの社会活動であると思うし、そういう場を川崎市が市民に提供しているということがすごいことだと感じています。

寺内 一人ひとりが学びながら、自分なりにこれまでになかった自分を作っていくという営みが、どの学習者にとっても大事なことだと思います。それぞれの学び、新しい生き方が、一人の中に終わらないで、共生の中の個の確立、共生的な自立が大事だと思うのです。もともと市民大学も、生涯学習の基本計画の中に「助け合う」という根本的な考え方に基づく仕組みとして置かれていました。助け合



寺内 藤雄さん

合って学び合っていくような仕組みを作ろうということがあったわけです。ですから、アカデミーにおいて、川崎学とか社会活動というのは、その象徴かと思うのです。どういう形であれ、「助け合う」あるいは「共に創る」ということを、どこまでも意識しながらやっていった方が、最終的には個の学びも、より輝きを増すのではないかと思うのです。

アカデミーに期待をよせて

司会 これからのアカデミーに期待することや夢を語っていただきます。

福富 アカデミーには図書コーナーはあるのですが、図書室がありませんので、ぜひ図書室を作ってほしいと思います。私は、手持ちの本を今後どうしようかと考えています。私は樺太生まれなので、樺太に関する書物は、樺太の資料室に寄付しようと思っていますが、それ以外の本は、受け入れてくれるならば、アカデミーに寄付してもいいと思っています。ただ利用されないのではつまらないのですが、図書室を充実して活用しやすい形を整えていただければと思います。

宮蔭 アカデミーには多才な方がたくさんいらっしゃいます。人材バンク的なものがあればと思っています。例えば、朗読の会を開こうと思ったら出演者を探すわけですが、そういう時に、どこにどんな人がいるか、すぐにわかるようなソフトがあればいいですね。いま、朗読の会では、外部からの出演者の他に、アカデミーの講座で学んだ人も2名活躍して

います。身近にふさわしい人のいることがすぐにわかれば、ことを起こす時に力になると思います。

伊与田 アカデミーから様々な社会活動が生まれ、その道の専門家も育っている。この事業をもっと拡充してほしい。高齢化でリタイア世代が増え、行政負担も増えるかもしれない。一方、この世代は、時間もあるしそれなりの経験もある一つの市民勢力であると思います。この層の活性化が市民意識を底上げして、行政参加や市民との共創に通じるのではないのでしょうか。ひいては行政負担も抑制し、逆に市政を支える勢力になると思います。アカデミーはそのエネルギー源にもなり、重要な役割を担っている。裾野を拡大していただきたい。

森山 アカデミーが行き詰まった時、あるいは絶好調の時に、立ち上げた時の精神にかえて見ることが大切だと思います。継続的で専門的な学習機会になっているか、現代社会が内包する課題、住民自治としての地域社会に目を向けて学習を組み立てているか、学習と社会還元を一体的に捉えているか、運営の自治、市民自治の観点に立っているか、などを念頭におくことが大事だと思います。二つ目は市の財政事情もあって大変だと思いますが、アカデミーがアカデミーとして単独で完結するのではなく、市内の学習活動を推進している機関との提携を考えてほしい。三つ目は、民間では採算が合わないような学習内容を計画的に考えていただきたい。様々な市民要求を掘り起こして応えられるような形を見つめ直してほしい。



森山 定雄さん

かつて、川崎に市立大学を作るという構想がありました。今となっては、財政的に難しい面がありますが…。大学というのは、実態としては若者が学ぶ場ということでしょうが、「知の集積」という側面もあると思います。アカデミーを創設する時に、アカデミーは川崎における「知の集積」の役割を持つんだという誇りをもって仕事をしていました。川崎における「知の集積」をどうするかという時、「アカデミーは絶対必要なんだ」と強調してほしいと思います。

和田 講師の立場からいいますと、世代交代の時期に来ています。運営委員として、企画委員として10年間関わってきましたが、そろそろ「賞味期限切れ」になってきましたので、次の世代へどのようにバトンタッチをしていくかをここ5年位のうちに考えたい。講師は自分の後継者は自分で確保するシステムになっていますので…。今の精神を次の世代に引き継いでいけるかが課題です。知的ネットワークの広い人が運営委員になってくれるといいなと思っています。

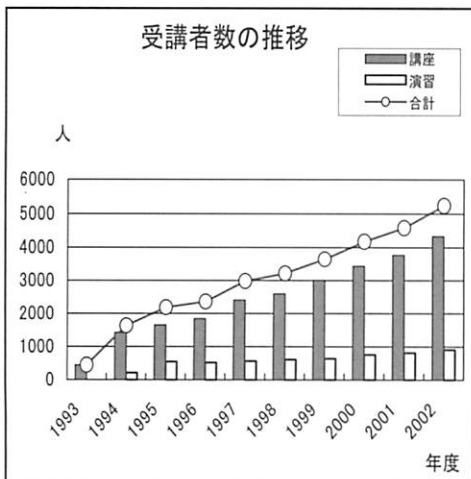
寺内 もともとアカデミーは市民大学、専門的な学習機関として設立されました。92年4月に発足した「生涯学習プログラム開発委員会」では提言内容を5点に整理しています。ここでは「学習や研究内容の編成は既存の学問研究の体系から出発するのではない」とはっきり言われています。他に「市民の自主性が最大に保障される仕組み」「市民と行政と研究者の三者による継続的な自己活性」がうたわれています。立ち上げのころに提言されたことが今どきのようになっているかを振り返る必要があると思います。

アカデミーの修了生や受講者が、カリキュラム外の所で、地域のみなさんと関わって活動されていると思うのですが、その全容が見えてきません。活動の実態を明らかにすることで今後の道筋が見えてくると思うし、後押しできる材料も出てくるのではないかと思います。連携という点では、私たちもしっかり取り組まなければならないと思っています。身近な所では市民館や図書館との連携が考えられます。図書館は知の集積であり、知の活用場でもあります。そこにはそれなりの専門的な人材がいますので、アカデミーもそこにつながることで、相乗効果が生まれればいいですね。人材の活用、学習情報の提供などで新たな連携の仕組みができてくると思います。

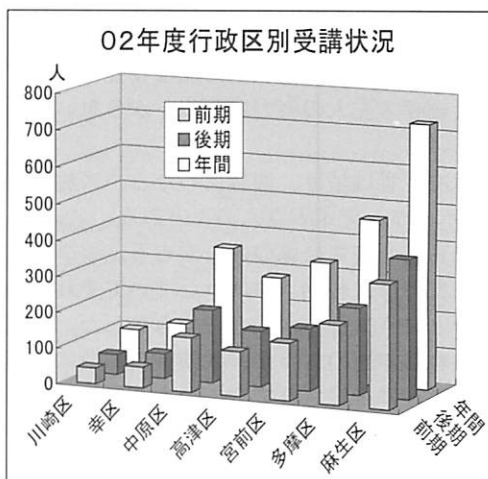
司会 現状をしっかりと見ていただく中で、課題を整理し、新たな視点から具体的な提言をいただきありがとうございました。みなさんのご意見をこれからのアカデミーの発展に向けて活かすよう努力したいと考えています。



関 智義



受講者数は、会員・生涯会員・聴講生の総数(実数)です。アカデミー開設以来増え続け、特にここ数年は急増し、02年度は5237人で、対前年度比834人増となっています。



02年度の総受講者数に対する受講者の居住地割合は、川崎市83%、横浜市9%、その他8%です。市内では北部地区が多く、麻生区は市内受講者の31%となっています。ここ数年では中原区の増加が目立っています。

●アカデミー●

歴史の路「熊野古道」をたずねて

～世界遺産予定の二大聖地を歩く～



かわさき市民アカデミー受講生40名は、9月8日から12日まで4泊5日の日程で熊野古道・高野山研修旅行を行いました。研修旅行を開催するに当って、和歌山県東京事務所で作成と現地手配、和歌山県教育委員会で学芸委員手配など地元関係者のいろいろな協力をいただきました。大門坂と小広王子からの熊野古道ウォーク、熊野速玉大社・熊野本宮大社・慈尊院の見学、高野山散策、高野山宿坊（北條政子が建立した金剛三院）宿泊など、世界遺産暫定リストに記載された二大聖地を歩き、有名史跡を訪ねて学習しました。参加者から次のような感想が寄せられました。

■熊野古道や高野山に関することは、書物で読んだりテレビを観たりして、概念的には理解していました。しかし今回参加してみて、聖地・霊場などは、自分自身の足でそこを歩み、自分の目でそこを観、あるいは全身で霊を感じることで理解が深まるものと思いました。要所、要所に「語り部」さんの説明があり、熊野古道と高野山をより深く理解することができました。

■熊野地方に点在する社が、古道が、歴史が、信仰がただ苔むして古いというだけでなく、今日現在のその佇まいに、古来今まで長い間、日本人が大切にしてきた心と、魂といった清冽な無形なものに直に触れた気がしたところ洗われた旅でした。

■やっと雨が上がり、峯々に湧き上がるもやが幻想的だ。秀衡桜の傍らにある高浜虚子の句碑が印象に残る。樹齢1000年を超える巨杉が立ち並ぶ「野中の一本杉」に到着。その名は枝が熊野を指して伸びていることに由来するとのこと。これらの杉木立は明治の神社合祀令の際、南方熊楠などの尽力により伐採を免れたと聞き、先人の努力に頭の下がる思いがしました。

■旅は道連れ、旅は心、世は情け、四日にわたるバス旅行は最高のものでした。ベテランガイドさんのよどみない名調子、運転手君はあの狭い古道をバスに傷つけながらも、安全に運行してくれた。語り部さんは終始ニコニコしていてそれが楽しくてしょうがないという気持ちが伝わってきました。古道に面して住んでおられる年配の方々が、人懐っこく話に答えてくれました。世界遺産に指定されても、今ある風光明媚な景色をこれ以上壊すような開発は避けていただきたい。何年かして訪れたとき同じ景色にまた出会いたい。

生涯学習ア

●たのしむ●

冬から春の「スポーツ教室」のご案内

冬季から初春にかけて屋外スポーツ教室で楽しく学び、健康・体力をつくり快適な生活をおくりましょう。皆様の参加をお待ちしています。

- 中原テニス教室（場所：等々カテニスコート）
平成16年1月9日～3月12日 金曜 全10回
・初級者コース 9：30～11：00
・初中級者コース 11：30～13：00
受講料…各12,000円 定員…各16人
- エアロビクス教室（場所：川崎市生涯学習プラザ）
平成16年1月19日～3月29日 月曜 全10回
時間…10：00～11：10
受講料…5,000円 定員40人
- 気功・太極拳教室（場所：川崎市生涯学習プラザ）
平成16年1月13日～3月16日 火曜 全10回
時間…10：00～11：30
受講料…5,000円 定員40人

★申し込みは、12月17日(木)必着で、往復はがきに教室名及びコース・〒・住所・氏名（ふりがな）・☎・年齢・性別を記し、下記あてにお送りください。

〒211-0064 中原区今井南町514-1

川崎市生涯学習振興事業団 学習推進室

問い合わせ ☎044(733)5572

●さがす●

「教育人材」を紹介しています

教育人材センターでは、教育人材の紹介をしています。人材は川崎市の学校を退職した教職員で、ボランティアとして皆様の学習活動の支援をしています。

■ 最近の人材紹介例 ■

- ★PTAの学習会・研修会の講師
「家庭でできる算数指導」「読書の楽しさ」など講演
- ★学校の授業の講師
総合学習で室町文化の水墨画について指導・実習
- ★高齢者対象の教室の講師
体操、園芸、囲碁、英会話などの指導
- ボランティアの声
「皆さん意欲的で、英会話講座終了後も、自主学習をすることになり、継続して呼ばれています」。

■ 「人材ガイド」を差し上げます（無料） ■

140円切手を同封のうえ、下記へお申し込みください。

〒211-0011 中原区下沼部1709-4

川崎市教育会館内 教育人材センター

問い合わせ 教育人材センター ☎044(435)7474

※このコーナーでは(財)川崎市生涯学習振興事業団の事業や関連施設の紹介をしています。

ラ・カルト

●はぐくむ●

自然は友だち 黒川青少年野外活動センター

川崎市の北部、麻生区黒川にある「黒川青少年野外活動センター」は、たくさんの木々に囲まれ豊かな自然とふれあえる所です。春は桜の花見、夏は竹やぶから切り出して作った竹樋で「流しソーメン」、秋には山の落ち葉で「焼き芋」、冬は「餅つき」と、四季を通して自然に親しむ活動ができます。週末や夏休みには、青少年団体の活動や指導者の研修などで賑わっています。平日は幼児サークルや地域の自主グループの活動の場として、小・中学校の遠足や野外活動の場として活用されています。

主催事業では、年間を通して森や畑で活動するプログラム「家族で楽しむ黒川のアウトドア」や、「黒川の夏キャンプ」などがあり、毎回好評で定員を上まわる申し込みとなっています。参加者からは「初めて出会った子と友達になった」「親から離れ自分でやろうとする力がついた」「木の工作や夜のかくれんぼ、子どもが喜びそうな企画がいっぱいで楽しかった」などの声が届いています。

今後も施設の特性を生かし、充実した活動ができる野外活動センターを目指していきます。これから参加できる事業は以下の通りです。詳細はお問い合わせください。

★黒川のおもちつき…12月23日(祝) 10:00~14:00

餅つき・焼き芋・しめ飾り

★こども体験教室…平成16年1月~3月の日曜、全4回

昔遊びの体験やおやつ作りを実習

問い合わせ 黒川青少年野外活動センター ☎044(986)2511

●まなぶ●

パソコンセミナー 受講者募集

平成16年1月開催の講座は以下のとおりです。

日 程	コース名	講座No	申込締切日
14(水)・15(木)	E X C E L 中級	1-A	12/24(水)
17(土)・24(土)	ホームページ作成	1-B	12/25(木)
21(水)・22(木)	パソコン入門	1-C	1/5(月)
26(月)・27(火)	初級ステップアップ	1-D	1/5(月)
29(木)・30(金)	WORD 中級	1-E	1/8(木)

★会 場…川崎市生涯学習プラザ3階研修室

★受講時間…9:30~16:30(昼休憩1時間あり)

★受講料…12000円(テキスト代含む)。定員は各15人。

★申し込み…はがき・Fax・電話で。第2希望までの講座・〒・住所・氏名(ふりがな)・☎・Fax・年齢・受講目的を明記。

〒211-0064 中原区今井南町514-1

川崎市生涯学習振興事業団学習推進室 パソコンセミナー係
問い合わせ ☎044(733)5894/Fax 044(739)0085

ハート & ハーモニー Vol.38

急性呼吸器感染症

ヒトの一生を通じて、最も環境との物質のやり取りがあるのは呼吸です。成人では1日に約10kgの空気が肺に出入りし、これは食物や水よりも1桁多い量です。空気中には酸素や窒素などのガス以外に、さまざまな物質が微粒子として漂っていて、これらも肺に吸入され、粒子の大きさによってはそのまま呼出されずに粘膜上に残ります。大きめものは気道の繊毛上皮によって喉頭部まで運ばれ、痰となって99%は唾と一緒に無意識に胃に飲み込まれます。意識して出せる痰はごく一部に過ぎません。

ウイルスや細菌といった微生物も空気中を漂っています。その一部には病原性があり、たまたま気道の粘膜に付着して増殖・侵入すると感染が起こります。ウイルス感染は速やかに起きるので、頻繁にうがいをして感染防止効果はないとされますが、気道の粘膜を健全な状態に保って感染を成立しにくくしておくことは十分に意味があります。また、こまめな手洗いは、うがいより予防に効果があります。

いわゆるカゼ症状を起こすウイルスは、ありふれたコロナウイルスを始めとして何百種類もあるとされます。これらのすべてに免疫を獲得することはできないので、一生の内には何度もカゼを引きまします。インフルエンザでよく筋肉痛を起こすように、ウイルスによっては思いがけず心筋炎や心内膜炎を起こすことがあります。これは小児に多く、知らずに強いスポーツ活動をすると急死の原因になります。子供のカゼは安静が原則で、軽くは見られません。

カゼのほとんどはウイルス感染症です。細菌感染症であれば、黄色や緑の色のある痰が出るのが目安の一つになります。カゼの治療でウイルスに効果のない抗生物質を使用するのは、細菌感染が合併しているときか、特別な予防をしたいときに限られます。日本呼吸器学会では2003年6月にガイドラインを定めて、カゼ症候群への抗菌薬投与基準を厳格化しました。これに関して「3日間様子を見れば」判断が容易になる、という考え方が出されています。

総合感冒薬には「カゼの諸症状に効く」いくつもの薬が配合されています。ウイルスに効く薬はほとんど無いため、治療の基本は対症療法で身体を楽にして、免疫力と回復力を高めることです。薬を飲んで無理に仕事や学校に行くと、周囲に感染を広げることは本末転倒です。形式的に「お大事に」と言うのではなく、感染症は「罹らない」「染さない」「持ち込まない」の三原則で対応しましょう。

(スポーツドクター 野田晴彦)

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●入門手話講習会

平成16年2月5日～3月4日の木曜18時半から、全5回。場所は川崎市南部身体障害者福祉会館。40人(抽選)。無料。対象は市内在住、在勤、在学の人。☎1月23日(金)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、「入門手話講習会希望」と記し、〒210-0834川崎区大島1-8-6同館へ。☎(244)3971。

●玉川大学公開講座

12月開講の「ハンドベル講習会」「紅茶の文化と歴史」「家族で作るクリスマスケーキ」ほか4講座の受講生を募集。詳細は☎042(739)8895の同大学継続学習センター。

●ランチタイムコンサート～ハンドベル クリスマスコンサート

12月17日(木)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。出演は河野さとみ(ハンドベル)上 雅子(ピアノ)。曲目は「アメイズング・グレイス」「めぐり逢い」「クリスマス・ソング・メドレー」他。無料。☎☎(210)3600の文化財団。

●アンサンブルピコ・ピッコリーノ「こどものための音楽会」

平成16年1月17日(土)11時と15時の2回公演。会場は国際交流センター。おはなし音楽館「おとぎのくに」。サン・サーンス「動物の謝肉祭」他。1000円(全自由席)。親子割引券あり。☎☎(511)7088のオフィス・ピコ。

●フレッシュアンサンブルかわさき・ファイナルコンサート

平成16年1月11日(日)14時開演、麻生市民館大会議室。ピアノ、バイオリン、チェロによる演奏。ショパン「木枯らし」、メンデルスゾーン「歌の翼」他。後半に親子合唱のコーナーあり。先着200人。無料。☎☎・Fax(989)1338の丸山さん。

●ミニ画廊スナック「琴」写真展

12月31日(水)まで。富士岩夫の風景作品他。場所は幸区鹿島田。展示無料。☎☎(544)0507。

●浮世絵展

12月3日(木)～20日(土)まで、「初代広重の東海道五十三次揃」。川崎区の砂子の里資料館。無料。10時開館。日・祝日休館。☎☎(222)0310。

●ミュージアム・シネマテーク「銀幕を彩る女優たち」

12月6日(土)13時半「アンナと王様」▽16時半「17歳のカルテ」。12月7日(日)13時半「フィツカルルド」▽16時半「ふたりの女」。12月13日(土)13時半「エリン・プロコピッチ」▽16時半「ユー・ガット・メール」。12月14日(日)13時半「裸足の伯爵夫人」▽16時半「お熱いのがお好き」。会場は市民ミュージアム・映像ホール。入場料は大人500円、小中学生300円。スカラチケット10枚綴り4000円。定員各回270人。有料託児サービスあり(毎土曜13時半の部のみ、事前予約)。☎☎(754)4500。

●青少年創作センター～新春創作教室(小・中学生対象)

①ビーズ手芸②陶芸。①②とも平成16年2月15日～3月14日の日曜、全4回。時間は①9時半②13時半。定員各30人(抽選)。①は小学4年生以上。費用は①1200円②1000円。☎12月22日(月)までに往復はがきに教室名、氏名、住所、性別、☎、学校名・学年を記し〒214-0034多摩区三田2-3303-1同センター。☎(911)1510。

●青少年創作センター～新春創作教室(成人対象)

①草木染②絵手紙③はたおり。①は平成16年1月29日～2月19日の木曜9時半から、全4回。②は2月5日～26日の木曜10時から、全4回。定員各30人。③は2月6日～20日の金曜9時半から、全3回。定員12人。費用は①6000円②3200円③3000円。☎12月22日(月)までに往復はがきに教室名、氏名、住所、性別、☎を記し、〒214-0034多摩区三田2-3303-1、同センター。☎(911)1510。

●川崎市民プラザ「女性硬式テニス教室」

平成16年1月19日～3月22日の月曜、全10回。市民プラザ体育館。時間は初級者10時から、中級者13時から。受講料12000円。申12月24日(木)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、希望コースを記し、〒213-0014高津区新作1-19-1「市民プラザテニス教室」係。☎☎(888)3131。

●おやこ合唱募集

平成16年1月11日(日)に行われる「フレッシュアンサンブルかわさき」のファイナルコンサートで歌う親子を募集中。対象は5歳～中学1年の子どもとその親。子どもだけの参加も可。曲は団伊致磨作曲「子守唄」。練習は12月18日(木)26日(金)の17時半からと1月10日(土)10時から、麻生市民館で。詳細は☎☎・Fax(989)1338の丸山さん。

●「コーギーコンサート」出演者募集

「コーギーコンサート」は、日ごろ音楽の練習に励んでいるながら発表の機会がない成人を対象にした音楽発表会。平成16年2月15日(日)14時から高津区溝口の樫ホールで行うコンサートの出演者を募集。部門は問いませんが、主にクラシック。詳細は☎(812)6090の樫ホールまで。

●「ワンダフル・サードエイジ2004」募集

「サードエイジ」とは、しがらみから開放された黄金の時を過ごす人々のことです。趣味、ボランティアなどに一生懸命、地道に頑張っている方や団体を募集中。自薦、他薦および国籍・性別・年齢不問。締め切りは平成16年3月31日(水)。詳細は☎03(3486)9444のアクティブ・エイジング・キャンペーン実行委員会事務局。

●年 末 年 始 休 館 の お 知 ら せ ●

◆川崎市生涯学習プラザ

12月28日(日)から新年1月4日(日)まで

問い合わせ…☎044(733)5560 当事業団総務室

◆新百合トウエンティワン

12月28日(日)から新年1月4日(日)まで

問い合わせ…☎044(952)5000 当事業団新百合分室